

連続観測機器を用いた海洋環境モニタリングと有効活用に関する研究会を開催しました

2015年10月22、23日に、東京大学大気海洋研究所、大槌町公民館、岩手県水産技術センターにおいて、「連続観測機器を用いた海洋環境モニタリングと有効活用に関する研究会」が開催されました。同研究会は、連続観測機器を使用している研究者と機器の開発メーカーが集まり、研究事例の発表と情報交換を行うことを目的とした会であり、今回が初めての開催となる。

22日の午前中には、東京大学の船舶を用いて大槌湾における連続観測のブイシステムの視察を行い（写真1）、引き続き午後には、大槌町役場において研究発表会を行った。翌23日の午前中には、岩手県水産技術センターを訪問し、震災復興のために取り組んでいる様々な研究の紹介があった（写真2）。



写真1 船舶によるブイシステムの視察

研究会では、11件の口頭発表が行われ、瀬戸内海、有明海、三陸沿岸における研究事例が発表されるとともに、観測機器メーカーが所有する観測機器の紹介とその使用方法に関する情報が提供された。各々の研究者が創意工夫を重ねながら、観測を行っている状況について知ることができ、今後の業務を進める上で、非常に有益な知見を得る

ことができた。また、新たな機器の開発も急速に進んでおり、様々な項目について観測が可能になっていることが分かった。研究会を通じた共通の話題としては、「観測機器への生物付着の防止方法」と「センサー値と実測値の間のズレの補正方法」であった。この2つの問題は、連続観測を行う中での宿命とも言える課題であり、簡単に解決する問題ではないが、これらについて再認識するとともに、個々の研究者の取り組み状況を知る事ができただけでも、本集會を開催した意味はあったと考えられた。発表会のプログラム、要旨、発表スライドについては、了解が得られた方については、以下のアドレスに公開しているので、参考になれば幸いである（http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/aori_news/meeting/2015/20151022.html）。



写真2 岩手県における水産研究の紹介

なお、本研究会は東京大学大気海洋研究所共同利用研究「連続観測機器を用いた海洋環境モニタリングと有効活用に関する研究会（受付番号：103、研究代表者：高木秀蔵）によって、実施されたものである（水圏環境室：高木）。